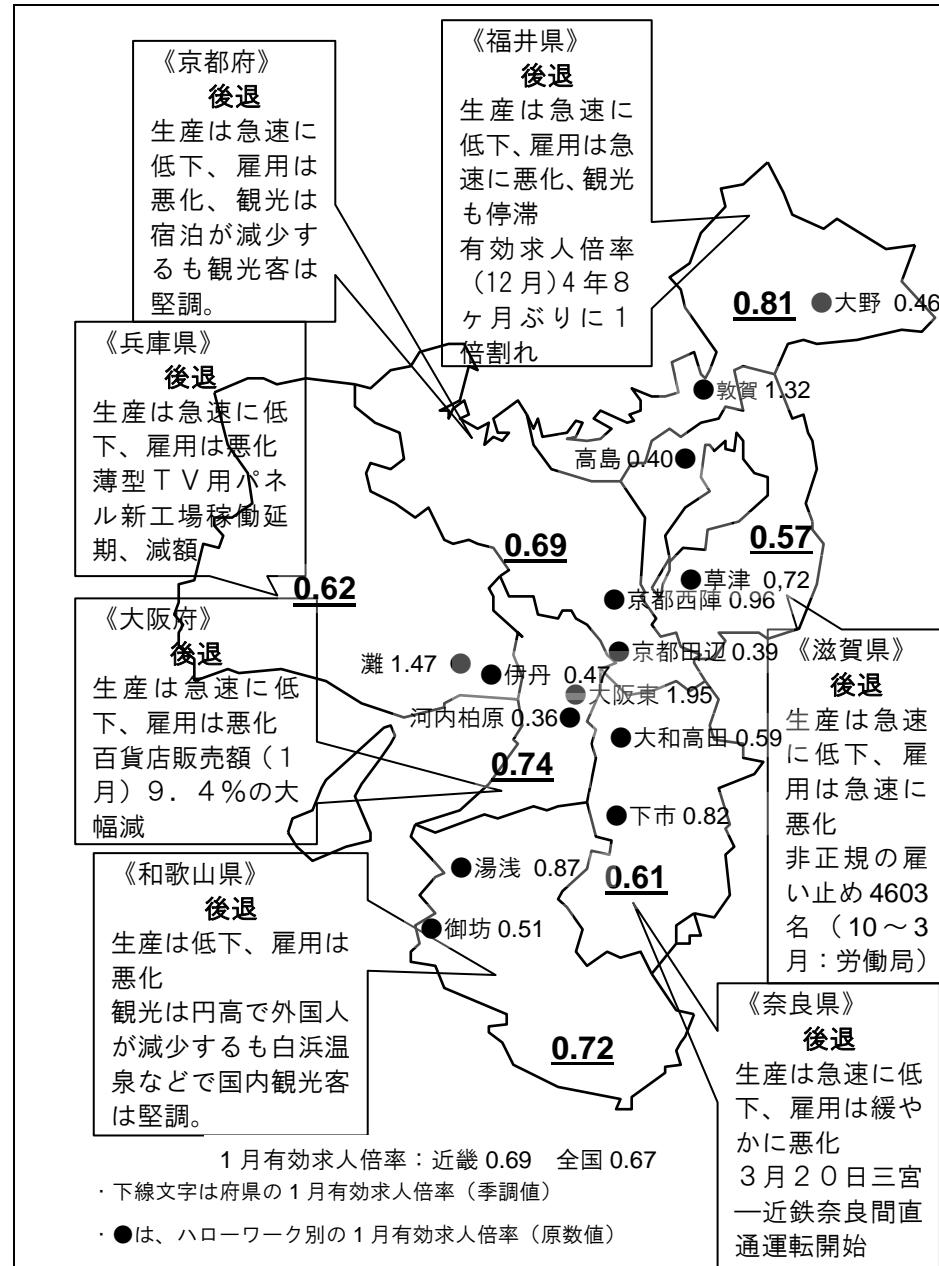


近畿経済産業局管内の経済動向

資料 1



近畿地域の経済は、後退している。

1. 全体の動向

好調であったアジア向け輸出も大幅な減少に転じており、設備投資にも減額等の動きが広がっているほか、個人消費も一段と弱くなっている。こうした中、生産は鉄鋼等素材や機械にも大幅減産の動きが見られ、急速に低下しており、雇用も悪化するなど、総じて近畿地域の経済は、後退している。

2. 個別の動向

(1)生産 ~急速に低下~

世界的な最終需要の急減が電子部品、鉄鋼、化学等の素材や機械に波及し、軒並み大幅減産となっている。

(2)設備投資 ~高水準ながら弱い動き~

リチウムイオン電池、太陽電池関連は引き続き前向きであるものの、薄型TV用パネル関連の大型投資で稼働延期や減額等がみられる他、ほぼ全業種で計画の減額、先送り、取りやめの動きが顕著になっている。

(3)雇用情勢 ~悪化している~

製造業を中心に派遣・請負を削減する動きが広がっており、特に、年度末で雇い止めとする企業が多くなっている。こうした中、一部で希望退職による正社員削減の動きもみられる。なお、残業時間は減少している。

(4)個人消費 ~一段と弱くなっている~

消費マインドの低迷等により、百貨店に加えスーパーにも陰りが見えはじめ、自動車も普通車のほか堅調だった軽自動車も減少に転じている。

3. 地域経済のトピックス

- 海外景気の悪化に伴う輸出の大幅な減少や円高による為替差損から電機、電子部品等輸出関連企業を中心に収益が大幅に悪化。
- 売上げ減に伴い、運転資金の需要は増加。メガバンクを中心に銀行の中小企業向け貸出態度が慎重。今後、売上げ次第で一層の資金繰り悪化を懸念。
- 秋以降の親企業の急激な減産に伴い、下請取引が大幅に減少している。親企業は一定量の発注確保等配慮しているが、下請企業は非常に厳しい状況。